

注目されるSDGs —世界全体で達成を目指す17の目標—

SDGs(エスディーゼーズ)とは？

SDGsは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月、ニューヨークの国連本部で行われた国連サミットで採択された、国連加盟193カ国が達成を目指す2016年から2030年までの国際目標です。

世界においては、貧困、気候変動、人種やジェンダーに基づく差別など、多様な問題や課題に直面しています。こうした地球全体の問題を解決するために、「誰ひとり取り残さない」という共通理念のもと、SDGsでは17の目標と、それを達成するための169のターゲット(より具体的な目標)を設定しています。SDGsは、よりよい未来を目指すための世界共通の17の目標です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



日本政府のSDGs実施指針

国連の動きに合わせて日本政府においてもSDGsを重点課題と位置付け、2016年5月にSDGs推進本部が設置され、同年12月にSDGs実施指針を策定し、日本として特に推進すべき目標として「8つの優先課題」を発表しました。

【SDGsの構成 「5つのP」と「8つの優先課題」】

People(人間)	1. あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現 2. 健康・長寿の達成
Prosperity(繁栄)	3. 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション 4. 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備
Planet(地球)	5. 省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会 6. 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全
Peace(平和)	7. 平和と安全・安心社会の実現
Partnership(パートナーシップ)	8. SDGs実施推進の体制と手段

大企業だけではなく、中小企業こそ取り組むべき理由

現在、中小企業においてはSDGsに対する認知度・理解がまだ進んでいない状況にあります。逆にこの機会にSDGsに率先して取り組むことで、将来的には取引業者に対して「SDGsへ対応していること」が取引条件になる可能性もあり、ビジネス機会と捉えて取り組めば、予想以上のメリットが期待でき、また将来のリスクを低減させる効果も併せ持つことが可能となります。

【環境省が示したSDGs活用の4つのメリット】

企業イメージの向上

社会の課題への対応

生存戦略になる

新たな事業機会の創出